

Experiments of Biological Science and Technology 1

1 unit (compulsory)

Hitoshi Hori · PROFESSOR / BIOLOGICAL FUNCTIONAL ENGINEERING, DEPARTMENT OF BIOLOGICAL SCIENCE AND TECHNOLOGY, Yoshihiro Uto · ASSOCIATE PROFESSOR / BIOLOGICAL FUNCTIONAL ENGINEERING, DEPARTMENT OF BIOLOGICAL SCIENCE AND TECHNOLOGY

Target) 生理活性物質の構造と反応を理解し生物機能分子の設計を行うための基礎として、有機合成反応に関する実習を行う。

Outline) 生理活性物質の合成としてペプチド甘味料の有機合成実験を行い、有機合成実験の基本操作と手法を修得する。

Keyword) *bioactive substance*, ペプチド甘味料

Fundamental Lecture) “Organic Chemistry 1”(1.0), “Organic Chemistry 2”(1.0)

Relational Lecture) “Exercise of Biological Science and Technology 1”(1.0)

Requirement) 有機化学 1, 2 を受講していること。

Notice) 事前に配布する実習書をよく読み実験の流れ及び反応を理解しておくこと。有機合成実験及びプレゼンテーションは4~5人の班単位で行うが、レポートに関しては各自でまとめるので必ず全員が実験に参加すること。また、各自実験ノートを用意し実験記録をきちんとつけること。

Goal)

1. 有機合成実験における基本操作、手法及び反応機構を理解する。
2. 有機合成実験の結果を論理的に考察し発表する能力を身に付ける。

Schedule)

1. 実習講義:実験の目的・手順・注意事項などに関する説明
2. 化学構造記述フリーソフト (ChemSketch) の使用法の説明
3. レポート及びプレゼンテーション用スライド作成に関する説明
4. アスパルテームの合成 1:アスパラギン酸の N 末端の Z 化
5. アスパルテームの合成 2:フェニルアラニンの C 末端のエステル化
6. アスパルテームの合成 3:プロテアーゼを用いたペプチド合成
7. アスパルテームの合成 4:プロテアーゼを用いたペプチド合成の精製
8. アスパルテームの合成 5:Z 基の脱保護
9. アスパルテームの合成 6:アスパルテーム精製・定量と甘味度試験
10. 実験データのまとめ (実験予備日)
11. レポート (到達目標全ての一部評価)
12. プレゼンテーション (到達目標全ての一部評価)

Evaluation Criteria) 出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1, 2 ともレポート (50%) 及びプレゼンテーション (50%) で評価する (出席点は加えない)。

Jabee Criteria) 成績評価と同じ。

Relation to Goal) 本学科教育目標 (B), (C), (D) に対応する。

Textbook) 小冊子「生物工学実験 1」

Reference)

- ◇ 徳島大学工学部編「安全マニュアル」
- ◇ 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」
- ◇ 化学同人編集部編「続実験を安全に行うために」
- ◇ 日本化学会 (編)「季刊 化学総説 味とにおいの分子認識」学会出版センター
- ◇ 上村明男編「研究室で役立つ有機実験のナビゲーター」丸善,
- ◇ 後藤俊夫 (他 2 名) 編「有機化学実験のてびき」化学同人
- ◇ J. McMurry, 「マクマリー生化学反応機構」東京化学同人

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=216069>

Student) Able to be taken by night course student of same department

Contact)

⇒ Uto (M820, +81-88-656-7522, uto@bio.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: 木曜日 16:20-17:50)

Note) 原則として再試験は実施しない。